

Google Workspace による校務情報化の4年間の実践と考察 ―「授業と校務の相似形」を軸とした業務改善と今後の課題―

中川 宗（札幌市立幌西小学校）

安井 政樹（札幌国際大学）

概要：本研究は、教職員の業務効率化、情報共有の促進、そして働き方改革を目指し、本校で4年間にわたり実践してきた Google Workspace を活用した校務の情報化について報告する。スプレッドシートやドキュメント等のツールを基盤とした情報共有の円滑化、ペーパーレス化、業務改善の具体的な事例を紹介する。また、これらの取り組みがもたらした効果と課題について、教職員への意見聴取や業務データの分析に基づき考察する。最後に、考察結果を踏まえ、今後の校務情報化をさらに発展させ、教職員の負担軽減と教育の質の向上に貢献するための展望を示す。

キーワード：Google Workspace, 校務の情報化, 業務効率化, 情報共有, 働き方改革

1 はじめに

本稿では、Google Workspace を活用した校務情報化の実践を通じて、業務効率化、情報共有の促進、働き方改革にどのような成果が見られたかを明らかにすることを目的とする。また、その成果と課題を整理し、今後の展望を考察する。

2 研究の背景と目的

本校では、GIGA スクール構想の理念を踏まえ、情報教育の推進と教育活動の質の向上を目指し、端末活用に関する研究に取り組んできた。特に重視してきたのは、教職員自らが授業や校務の場面で率先して端末を活用することであり、その積極的な実践が、学校全体の ICT 活用の促進につながると考えたためである。

令和4年度に実施した校内アンケート調査（図1）では、Google Workspaceの校務活用に対して多くの教職員が肯定的な評価を示した。一方で、職員会議関連の情報リンクの集約化や、時間割・時数といった情報の一元管理、授業実践や校務に関するアイデアの共有といった面で、さらなる業務効率化と情報共有力の向上を求める声も明らかになった。

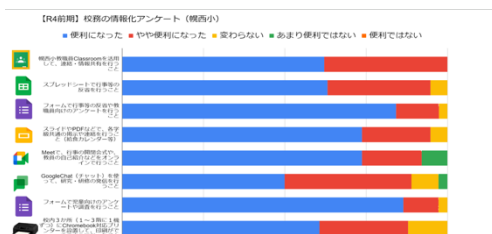


図1 校務の情報化アンケート (R4)

こうした教職員のニーズを受け止め、本校では、一人ひとりの長所を活かしながら協働的な風土の醸成に努めてきた。教職員の願いや思いを共有し合いながら、自由な発想と創意工夫をもとに、日々の校務における小さな改善を積み

重ねてきた。

これらの実践を通じて得られた成果や課題を丁寧に整理し、今後の校務情報化の在り方を展望することが求められている。そこで本研究では、クラウド環境を前提とした校務改善の過程を明らかにし、その成果と課題を整理したうえで、持続可能な校務情報化モデルを提示することを目的とする。

3 研究の方法

- (1) 情報共有の促進
- (2) 組織的コミュニケーション
- (3) テーマ別 ICT 研修による実践力向上
- (4) スキーマの活性化に基づく校務情報化の設計

4 研究の実際

(1) 情報共有の促進

Google Workspaceを活用し、校内教職員と情報共有を日常的に行なった。発信は全教職員が自由に行うことができる。内容は自分の日常授業実践や学校教育の最新動向などの情報を中心に、それらを Google Chat や Google Classroom に投稿している。情報担当者は、情報活用教育や校務の情報化など、ICT 活用に関する情報を ICT 通信（デジとら通信 R3～R7.5 月計 174 枚）として積極的に発信し、情報共有を図った。



図2 デジとら通信

ICT 通信や端末活用に関する情報の一部は、デジタルツールに不慣れな教職員への配慮と対面でのコミュニケーションによる理解促進を図るため、紙でも配布した。配布しているときにも積極的に教職員に話しかけ、困っていることはないかを聞くことも心がけた。

（２）組織的コミュニケーション

本研究では、校務情報化を円滑に進めるための前提条件として、教職員間の信頼関係と対話の基盤となる組織的コミュニケーションの在り方に着目した。その具体策として、非同期的な意見共有が可能な Google Workspace の活用を試みた。その中心的な取り組みの一つが、Google Workspace を活用した非同期的な交流の場の設定である。この場では、校務に関する提案文書が共有され、各教職員は自身のタイミングで内容を確認し、コメント機能を活用して意見や疑問点を表明することが可能である。また、日々の教育活動における児童の素晴らしい様子や、授業における実践事例なども Google Chat に自由に投稿され、返信機能やスタンプ機能を用いた気軽な意見交換や共感が生まれている。

今日の5年生合同体育。先生が大切にくださったのは、「つながり」。手繋ぎ鬼、手繋ぎ風船リレー、マイムマイム。「手をつなぐ」単純なことだけど、心をつなぐ世界共通の扉のようにも感じます。



図3 Google Chat の活用

さらに、本校では、特にサポートが必要と考えられる教職員、例えば育児中の先生、新任の先生、新採用の先生などに対して、積極的に声かけを実施した。日々の業務における困り事や不安な点について個別にヒアリングを行い、必要に応じて具体的な支援を提供してきた。これらの聞き取り調査はインタビュー形式でも実施し、その内容は動画として記録したが、プライバシー保護等の観点から校内での配信は行っていない。しかし、これらのインタビューを通して得られた教職員の生の声は、校務の情報化における課題やニーズを把握する上で重要なデータとして分析に活用している。

（３）テーマ別 ICT 研修による実践力向上

校内における ICT 活用能力の底上げと、特に

新しく赴任した教員や若手教員の早期適応を目的として、テーマ別の ICT 研修会を適宜実施した。研修対象者のニーズを踏まえ、NHK for School のコンテンツ活用方法、個別最適な学びを実現するための Google Workspace を活用した情報共有をはじめ、学習規律指導といった学級経営に関わる内容まで、幅広い分野を校内の様々な教員が講師となり実施した。研修の形態としては、講義形式に留まらず、模擬授業を取り入れることで、参加者が具体的な授業イメージを持ち、実践的な活用力を習得できるような工夫を行った。

研修の成果の一端として、参加した教員が研修で学んだ内容を自身の授業で積極的に取り入れる様子が観察された。NHK for School のコンテンツを活用した授業実践や、模擬授業で試行したスプレッドシートによる情報共有などが、実際の授業で展開される事例も見られた。これらの研修活動は、個々の教員の ICT 活用スキル向上に貢献するとともに、学校全体としての ICT 活用への意識を高める上で重要な役割を果たした。

（４）スキーマの活性化に基づく校務情報化の設計

本校の校務の情報化設計の根幹には、「授業と校務は相似形」とあるという理念が存在する。年度初めに、情報担当より全教職員に対し、この理念に基づいた Google Workspace 活用による校務運営の基本方針について説明を行った。その主な内容は以下の通りである。第一に、クラウドベースでの校務遂行は、教職員が自然と授業での ICT 活用イメージを想起し、学習転移を促す効果が期待されること。第二に、将来クラウド環境が社会の基盤となる子どもたちにとって、教員が積極的にその利便性を体感し、授業や指導への具体的なイメージを持つことの重要性。第三に、ロケーションフリーな働き方を実現することで、育児や介護等の家庭状況にある教職員も時間や場所に制約されることなく業務に取り組める環境を整備し、情報への等しいアクセスを保証すること。最後に、不明な点は遠慮なく質問できるオープンなコミュニケーションを推奨することである。また、年度はじめに困らないように簡易リンク集『スタートダッシュ早見表』を Google スライドで共有した。

（図4）

この基本方針に基づき、本校では新たなツールの導入を極力抑制し、全担任が日常的に使用する Google Classroom、ドキュメント、スプレッドシート、スライドといった基本的なツールを中心とした校務運用を意図的に行っている。例えば、校内連絡は教職員用の Classroom で行い、同様に各学級でも毎朝 Classroom を通じ

梶西小 新年度スタートダッシュ!! 早見表						令和7年度版	
2025年4月1日							
全般	困ったらずまはすは ご心配なことが つづきまわっています。	教職員年間行事予定 と、各学年の縦断や ループになっている シートがご覧いただけます。	学年便りやHP更新など と、各学年の縦断や ループを知りたい!	保護者年間行事予定 と、各学年の縦断や ループ、ご質問などが 見たい!	Nドライブ ・情報セキュリティポリシー ・事業報告A ・情報資産 ・学級関係等 一挙目録あり		
	リンク一覧表 R7年間行事予定	学校からの情報発信 について →※資料：学年便り は紙製HP掲載済み	梶西小HP トップページ下部に あります。				
校務	校務運営計画、各部 の資料を見たい!	梶西小専用の Google共有ドレイ ブを見たい!	入学式について知り たい!	学校の指導の基本 ルールを知りたい!	Nドライブ ・個人情報に関わる 各種書類		
	校務分掌 梶西小共有ドライブ		校務分掌「R7」行 事案	R7年度業務連絡先 と ういふもの	Oドライブ ・各部署下書き ・各種印刷物・掲示物フォルダ		
授業	欠席連絡を確認し たい!	教材採択を入 力したい! 知 りたい!	デジタル教科書に ログインしたい! (49年指定用紙で7年まで)	権利をコンテンツ 販売している →NHK、For School →Fusion →エデュコム →まなびネットワーク →優良教材のページ	Nドライブ ・教育課程手引データ ・教科書データ ・各学年指導データ ・ZTCROM		
	梶西小 欠席情報 R7 教材採択	デジタル教科書 ガイド					

 悠佑
4月25日

【4月25日（金）のみなさんへ】
おはよう！
今日は初めての調理実習に参観！楽しみだね！😊
昨日先生は園工の時間に感動しました。

🕒時間割の変更があります。
📦もってきたものは、決められた場所に！
📖自主学習カードは前の「じゃがりこボックス」へ！
🕒日直は〇〇さん、〇〇くん

~~~~~

◇◆◇今日の予定◇◆◇  
朝来たら、すばやく準備して 30分には朝読書！

①外国語 Unit1 教科書 準備：教科書、ディクショナリー、筆記用具  
②家庭科 調理実習  
準備：飲み物の粉類・エプロン・三角巾・ハンカチ・マスク・ふきん2枚・ビニール袋  
持ち物大丈夫？

③理科 雲の様子 準備：教科書：ノート  
④算数 体積 準備：教科書、ノート + 天気の様子観  
⑤道徳 セルフジャッジ 参観！がんばっているところをみてもらおう！

🌟今日の参観はどんなことをがんばる？どんなところを保護者のみなさんに見てもらいたい？  
👉思いをこちらに👉

👤 クラスのコメント 23件

職員会議においては、令和4年度のアンケートで要望のあった議題一覧のリンク化を実現した Google ドキュメントを活用している（図 6）。リンク先は主に編集可能なドキュメントやスプレッドシートであり、修正が生じた場合にも即座に反映されるため、情報の齟齬を防ぐことが可能である。また、各学級の時間割は全職員が共有する Classroom 上で作成・共有される。これにより、担任以外の専科教員も常に最新の情報を参照しながら授業計画を立てることができ、時間割の重複や調整不足といった課題を解消している。このような「同時共有の利便性」を校務において体感的に理解することで、授業における ICT 活用のイメージへと自然な転移を促すことを意図している。

| 令和7年(2025)年度 職員会議No.0-1       |            | 提案 | 連絡 |
|-------------------------------|------------|----|----|
| 4月7日(月) 13:00~                | 場所：職員室 進行： |    |    |
| 1.各部から：新年度計画                  |            |    |    |
| (1) 教務部                       |            |    |    |
| ■ 教務部：R7_運営計画                 |            |    |    |
| ■ 教務部：R6_校内学力テスト実施要項          |            |    | ○  |
| ■ 教務部：R7_HPの載せ方「こういNews」・「便り」 |            |    | ○  |
| ■ 教務部：R7_キャリアパスポート取組計画        |            |    | ○  |
| ■ R7_参観等・保護者学校に関わる年間計画        |            |    | ○  |
| ■ 教務部：R7_5月個人懇談希望調査・日程        |            |    | ○  |
| ・出席簿管理                        |            |    | ○  |
| ・欠席情報                         |            |    | ○  |
| ・個人写真の管理・教室の机上                |            |    | ○  |
| ■ ★R7 安全指導計画                  |            |    | ○  |
| ■ R7第1回避難訓練実施要綱 火災            |            |    | ○  |
| ■ R7避難訓練事前指導                  |            |    | ○  |
| ■ ★R7交通安全安全                   |            |    | ○  |
| ■ R7力面指導下級について                |            |    | ○  |
| ・保護者引き渡しカードについて(4月18日配付)      |            |    | ○  |
| ・時間割の集約について                   |            |    | ○  |
| (2) 研究研修部                     |            |    |    |
| ■ R7研究研修部 運営計画                |            |    | ○  |
| 提案 ■ 自主学習について                 |            |    | ○  |
| ■ R7自主学習チャレンジカード              |            |    | ○  |
| 研究大会の申し込み                     |            |    |    |
| (3) 行事部                       |            |    |    |
| ■ 学校行事：令和7年度運営計画              |            |    |    |
| ■ 始業式・終業式・修了式・新年式・新年式         |            |    |    |

にくいツールについては、導入の優先度を低く設定している。新しく赴任した教職員が「ちょっと便利だな」と感じられないツールは定着せず、結果的に教員と児童双方の負担増に繋がりがねないと考えている。本校が目指す働き方改革は、単なる時間短縮ではなく、教職員の心理的な負担軽減も重視しており、無理のない、持続可能な情報化を推進している。

本研究で採用した情報共有の促進、組織的コミュニケーションの活性化、テーマ別 ICT 研修による実践力向上、そしてスキーマの活性化に基づく校務情報化の設計というアプローチを実践して約 4 年が経過した。その結果、校務における Google Workspace、特にスプレッドシートやドキュメントの活用において、教職員による独自の工夫が顕著に見られるようになった。この変化は、本研究における意図的な働きかけのみならず、各教職員が日々の業務の中で ICT 活用に関する研鑽を重ねたことによる効果も大きいと考えられる。以下に具体的な事例を挙げて考察する。

[illegible]

図7 校務分掌一覧シート

さらに、個々の業務進捗を可視化したタスクシートの作成も散見されるようになった。(図 8) これにより、業務の重複や漏れを防ぎ、迅速かつ効率的な業務遂行に貢献している。また、担当外の教職員にとっても、業務の流れが明確になることで、見えない業務に対する不安感の軽減にも繋がる効果が認められる。

図 8 業務の進捗がわかるタスクシート

ドキュメントの活用においては、提案資料などを同一 URL 内でタブ分けし、年度ごとに整理する工夫が見られるようになった。(図 9) これにより、過去の資料との比較が容易となり、変更点や改善点が明確に把握できるようになった。加えて、部内での協議内容はドキュメントのコメント機能として記録されており、他の部の教職員も議論の過程を理解することが可能である。これは、組織全体の透明性を高め、教職員間の相互理解を促進する上で有効であると考えられる。

授業改善に向けた取り組みとしては、指導案検討における新たなスタイルが萌芽している。従来のように授業者のみが作成した指導案を基に検討するのではなく、白紙の状態から複数教員が共同でドキュメントを編集し、授業構想を練り上げる試みが始まっている。これにより、授業案作成の負担が分散され、協働的な授業づくりが促進されることが期待される。また、授業検討会議の前に指導案を共有し、事前にコメント機能を用いた意見交換を行うことで、会議当日の議論がより精選され、効率的な検討に繋がる効果も認められ始めている。(図 10)



図 9 年度比較ができるドキュメントタブ

図 10 指導案検討で活用しているコメント機能

これらの結果は、本研究で重視してきた「授業との相似形」という考え方にに基づき、教職員が日常的に使用するツールを中心とした情報化を推進することで、新たなツールの導入に対す

る抵抗感を抑制し、既存の知識やスキルを応用しながら、校務の効率化と質の向上に繋がる独自の工夫を生み出す可能性を示唆している。

## 6 今後の課題と展望

令和 7 年 5 月に実施した校務の情報化に関するアンケート調査では、これまでの取り組みに対して、一定の成果とともに今後に向けた課題も明らかとなった。

### (1) 肯定的な効果

| 回答            | 本校で2年以上勤務 | 本校で1年未満 |
|---------------|-----------|---------|
| とても良い影響を与えている | 31.3%     | 28.6%   |
| 良い影響を与えている    | 50%       | 14.3%   |
| どちらとも言えない     | 18.8%     | 57.1%   |

回答の多くからは、以下のような前向きな評価が寄せられた。

- ・授業で培った ICT スキルを校務にも応用できたこと
  - ・情報の一元化による業務効率の向上
  - ・ツール操作に慣れることで ICT 活用が促進されたこと
  - ・場所や時間にとらわれない柔軟な働き方の実現
  - ・教育活動全体に対する新たな視点の獲得
- これらは、校務と授業に共通するプラットフォームを活用してきたことによる成果といえる。

### (2) 今後の課題

一方で、以下のような課題も指摘された。

- ・ICT の活用に不慣れな教職員への負担の偏り
- ・情報共有における意思疎通の難しさ
- ・情報セキュリティに対する意識のばらつき

また、「授業で慣れ親しんだツールや考え方を校務に応用する取り組みが、校務の情報化全体にどのような影響を与えていると感じますか」という設問では、勤務年数による回答傾向の違いが顕著に現れた。若手教員は肯定的に受け止める傾向が強かった一方で、ベテラン教員ほど慎重な姿勢を示す傾向が見られた。

### (3) 展望と考察

本校が掲げてきた「授業と校務の相似形」という理念は、校務における ICT 活用のハードルを下げ、業務効率化に寄与してきた。しかし、教職員の ICT スキルには依然としてばらつきがあり、特に新年度の着任時期における習熟度の差への配慮は今後の課題である。

今後は、クラウド環境への理解をさらに深める支援とともに、本校の校務スタイルそのものを問い直し、教職員同士が対話を重ねながら、無理なく持続可能な情報化の在り方を模索していくことが求められる。ICT の定着には、制度や仕組みだけでなく、「人」のサポートと共感に基づく職場文化の醸成が不可欠である。

## 参考文献

教育方法と ICT (2023) 高橋純, 学文社,